

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	乙	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 氏原 正樹

論 文 題 目

Importance of appropriate pharmaceutical management in pregnant women with ulcerative colitis

(潰瘍性大腸炎合併妊娠女性に対する適切な薬物療法の重要性)

論文審査担当者 名古屋大学教授

主 査 委 員

吉川史隆



名古屋大学教授

委 員

柳野正人



名古屋大学教授

委 員

小寺泰弘



名古屋大学教授

指導教授

後藤秀実



論文審査の結果の要旨

近年、潰瘍性大腸炎(UC)の患者数は東アジア諸国や本邦において増加の一途をたどっている。UCは妊娠適齢期に好発する疾患であるため、妊娠・胎児・出産に対して疾患活動性や薬剤が与える影響を明らかにすることは非常に重要である。欧米からのUCと妊娠に関する報告は数多く存在するが、アジアおよび本邦では極めて少ないのが現状である。

本研究では1991年から2011年までに名大病院および関連施設において経験したUC合併妊娠患者(妊娠中にUCを発症した症例も含む)64名91回を対象に妊娠中における経過、疾患活動性、薬物療法に焦点をあて後ろ向きに検討を行った。

本研究の知見と意義を要約すると以下のとおりである。

1. 潰瘍性大腸炎には家族内での発症が数%認められ、なんらかの遺伝的な素因が関係していると考えられているが、単一の遺伝子で決まるものではなく、遺伝しないことも多い。また西欧型食生活の影響やストレス、細菌・ウイルスの感染などといった環境因子の関わりも考えられており、さらには自己免疫の異常も指摘されている。
2. 妊娠時に寛解期であった症例と妊娠時に活動期であった症例では悪化の頻度に差は認めなかったものの、その重症度は妊娠時に活動期であった症例において高かった。また流産・中絶も妊娠時に活動期であった症例に多く認められた。
3. 現在の薬物治療として、軽症例ではサラゾスルファピリジンやメサラジンが使用されることが多い。中等症や重症例では寛解導入目的にステロイドや免疫調節剤であるタクロリムス・シクロスポリンなどが用いられ、また寛解維持のためにアザチオプリンやメルカプトプリンが使用されることもある。最近では生物学的製剤が使用されることもある。
4. 妊娠経過中に薬物の減量や中止をした症例では薬物治療を継続した症例と比較して有意に多くの悪化が認められた。

本研究は、潰瘍性大腸炎患者では寛解期での妊娠が望ましく、妊娠中も適切な薬物療法の継続が重要である、という重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第	号	氏名	氏原 正樹
試験担当者	主査	吉川史隆	柳野上人	小寺泰弘
	指導教授	後藤秀実		
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 潰瘍性大腸炎の病因及び病態について 2. 潰瘍性大腸炎合併妊娠時の注意事項について 3. 潰瘍性大腸炎の薬物治療の現況について 4. 潰瘍性大腸炎合併妊娠時の薬物治療について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、消化器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				

学力審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※乙第	号	氏名	氏原 正樹
学 力 審 査 担 当 者	主 査 吉川史隆 柳野以 小林弘 指導教授 後藤秀実			
(学力審査の結果の要旨) 名古屋大学学位規程第10条第3項に基づく学力審査を実施した結果、大学院医学系研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力を有するものと学位審査委員合議の上判定した。				